

政務活動視察報告書

報告者：三浦 康宏

視 察 日	平成30年10月11日(木)・12日(金)
視 察 内 容	第80回全国都市問題会議
視 察 者	三浦康宏

<長岡市 第80回全国都市問題会議の概要>

テーマ：「市民協働による公共の拠点づくり」

会場：長岡市

シティホールプラザ アオーレ長岡

第1日目

9:30 開会式

9:50 基調講演

東京大学史料編纂所教授 本郷和人

11:00 主報告

新潟県長岡市長 磯田達伸

13:10 一般報告

三重県津市長 前葉泰幸

14:40 一般報告

建築家・東京大学教授 隈研吾

筑波大学客員教授 森民夫

アートディレクター 森本千絵

第2日目

9:30 パネルディスカッション

コーディネーター 明治大学政治経済学部地域行政学科長・教授 牛山久仁彦

パネリスト 東京理科大学工学部建築学科教授 伊藤香織

NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会理事長 奥山千鶴子

長岡市国際交流センター「地球広場」センター長 羽賀友信

埼玉県和光市長 松本武洋

高知県須崎市長 楠瀬耕作

11:50 閉会式



<長岡市 第80回全国都市問題会議 基調講演>

「地方分権へのまなざし」

「日本は昔から中央集権か」という視点から、・江戸時代、

それぞれの藩、それぞれの地域で教育があり、英才が育てられた。・黒船が「明治維新」を生み、世襲に囚われず才能を登用することで、「立身出世」をよしとし、各地の英才が



東京に集まる事で強力な中央集権が図られ、列強に対抗した。・明治の達成は高く評価するとして、それは300万人の犠牲を出した太平洋戦争に直線的に結びつくのか否か。過度な受験秀才の重用をどう捉えるか。と持論を展開し、現代の黒船はなにか？との問いにそれは「人口減少」だと考え、今こそ明治の中央集権とは逆に、地方の自治権を強く後押しするべきではないか。地方からのボトムアップこそが、新しい日本を支えて行くとまとめた。



<長岡市 第80回全国都市問題会議 主報告>

「長岡市の市民協働」

長岡市は人口県内2位、平成の大合併により11市町村が合併した。市の中央部を日本一の長さを誇る信濃川が縦断し、上越新幹線と関越・北陸自動車道が整備され首都圏や北陸・東北方面を結んでおり、主要都市へのアクセスを容易とする高速交通体系が充実している。国内外から2日間で100万人が訪れる長岡まつり大花火大会は「日本三大花火」の一つに挙げられる。平成16年7月新潟・福島豪雨、同年10月に発生した新潟県中越地震により甚大な被害を受け、今日まで復興に向けたまちづくりを進めて来た。

平成24年6月、長岡市は市民協働条例を制定したが、その制定に当たり条例検討委員会の議論の他、市内全域で30回のワークショップを開催し、1,000人を超える市民の声を反映した。また同年4月に開設した「ながおか市民協働センター」は、市とNPO法人が協働で運営し、市民の自発的な活動や各種団体の立ち上げ・運営などに関する相談を受けるほか、関連する団体等との連携をコーディネートしている。年間800件以上の相談があり、把握する市民団体数は平成24年度88団体から平成29年度227団体に伸びている。そして同年4月に屋根付き広場「ナカドマ」を中心に、アリーナ、市民交流スペース、市役所などの機能が渾然一体に溶け合う複合施設・シティホールプラザ「アオーレ長岡」がオープンし、平成29年度実績は、施設全体の稼働率84.9%、イベント数654件の内、民間主体のイベントは557件、延べ来場者数130万人を超え、オープンから6年間の累計来場者数は述べ813万人に上り、市民の自由な発想による活動の場（ハレの場）となっている。



<長岡市 第80回全国都市問題会議 一般報告>

「市民との対話と連携で進める津市の公共施設マネジメント」

津市斎場「いつくしみの社」、一般廃棄物最終処分場、津市産業・スポーツセンター「サオアリーナ」、津センターパレスビル、ポルタひさいビル、義務教育学校「みさとの丘学園」、認定こども園「津みどりの森こども園」一身田公民館、新町会館など、大規模公共施設それぞれが直面した課題を解決し、過去からの経緯が生み出す第三セクターの経営問題を公共施設マネジメントの手法を使い乗り越え、地域住民の関心の高いテーマである文教施設の統合を知恵を絞ってやり遂げ、新しい時代のコミュニティ施設やエリア再編を市民の手で青写真を描き、公共施設マネジメントの実現に向け、市民との対話と連携により取り組みを進めている。



<長岡市 第80回全国都市問題会議

パネルディスカッション>

それぞれ牛山久仁彦氏は「市民協働による公共の拠点づくり」、伊藤香織氏は「シビックプライド醸成のコミュニケーションポイントから考える『拠点』」、奥山千鶴子氏は「子育て支援から見た公共の拠点づくり」、羽賀友信氏は「長岡の市民主体のまちづくり」、松本武洋氏は「地域包括ケアを支える新たな拠点づくり」、楠瀬耕作氏は「人・モノ・金の好循環を目指して」とのテーマに沿ってディスカッションを展開した。

[感想・岡崎市への反映]

全国から様々な「市民協働による公共の拠点づくり」が紹介され有意義な時間となったが、加えて帰りの電車の都合で1時間程度待ち時間がある間に、会場となったアオーレ長岡、駅周辺に戦災資料館、震災アーカイブセンター、山本五十六記念館、河合継之助記念館等が歩いて回れる距離にあり、いくつか見学したが、観光都市を目指す本市に取ってもこのような環境を整備する事は大変有意義であると身をもって実感した。